

Oracle® VM Server for SPARC 3.2 インストールガイド

ORACLE

Part No: E56434
2015 年 4 月

Copyright © 2007, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
1 Oracle VM Server for SPARC 3.2 システム要件	9
サポートされるプラットフォーム	9
システムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョン	11
最小のシステムファームウェアバージョン	12
完全に認定されたシステムファームウェアバージョン	12
最小の Oracle Solaris OS バージョン	13
完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン	14
Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの場所	15
ドキュメントの場所	16
関連ソフトウェア	17
Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアとともに使用できるソフトウェア	17
Oracle VM Server for SPARC と相互作用するシステムコントローラソフトウェア	18
2 ソフトウェアのインストールおよび有効化	21
Oracle VM Server for SPARC ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアコンポーネント	21
新しいシステムへの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのインストール	22
Oracle Solaris OS の更新	23
システムファームウェアのアップグレード	23
Logical Domains Manager のダウンロード	24
Logical Domains Manager のインストール	25
Logical Domains Manager デーモンの有効化	28
Oracle VM Server for SPARC をすでに使用しているシステムのアップグレード	29
Oracle Solaris OS のアップグレード	29

Logical Domains Manager およびシステムファームウェアのアップグレード	31
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアへのアップグレード	32
出荷時デフォルト構成とドメインの無効化	34
▼ すべてのゲストドメインを削除する方法	34
▼ すべてのドメイン構成を削除する方法	35
▼ 出荷時デフォルト構成を復元する方法	35
▼ Logical Domains Manager を無効にする方法	35
▼ サービスプロセッサから出荷時デフォルト構成を復元する方法	36
索引	37

このドキュメントの使用方法

- **概要** - サポートされるサーバー、ブレード、およびサーバーモジュールに Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアをインストールする方法についての詳細と手順が記載されています。
- **対象読者** - SPARC サーバーで Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアをインストールするシステム管理者
- **必要な知識** - これらのサーバーのシステム管理者は、UNIX® システムおよび Oracle Solaris オペレーティングシステム (Oracle Solaris OS) の実践的な知識を持っている必要があります

製品ドキュメントライブラリ

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E56445>) に含まれています。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお聞かせください。

◆◆◆ 第 1 章

Oracle VM Server for SPARC 3.2 システム要件

この章では、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアを実行するためのシステム要件について説明します。

注記 - Oracle VM Server for SPARC の機能は、9 ページの「サポートされるプラットフォーム」に一覧表示されているサポートされるハードウェアプラットフォーム上で追加および維持されています。ただし、新しい機能は追加されず、既存の機能はリストから消去されたハードウェアプラットフォームでは維持されません。

一般に、新しい Oracle VM Server for SPARC の機能および機能性は、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアがリリースされた時点で、リストに価格が記載され、サポートされている Oracle のすべての T シリーズサーバーと M シリーズサーバーおよび Fujitsu M10 サーバーで利用できますが、すでに最終注文日が過ぎた SPARC ベースのシステムでは利用できません。

サポートされるプラットフォーム

ハードウェアプラットフォーム上で Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの複数のバージョンがサポートされている場合、バグ修正は最新バージョンのソフトウェアにのみ適用されます。プレミアサポートを受けるには、最新の Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアを使用する必要があります。

プラットフォームのドキュメントは、Oracle Technology Network (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-tseries-servers-252697.html>)で入手できます。また、さまざまなプラットフォームのソフトウェアスタックに関する情報は、「Sun System Software Stacks」ページ (<http://www.oracle.com/technetwork/systems/software-stacks/stacks/index.html>)で入手できます。

Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアは、次のプラットフォームでサポートされます。

■ **Fujitsu M シリーズサーバー**

- Fujitsu M10 サーバー (*Fujitsu M10 サーバー プロダクトノート*を参照)

Fujitsu M10 サーバーに固有の機能の詳細は、<http://www.fujitsu.com/global/services/computing/server/sparc/downloads/manual/>にある、使用しているモデルのプロダクトノートに記載された『*Fujitsu M10 サーバー/SPARC M10 システム運用・管理ガイド*』を参照してください。

■ **SPARC M シリーズサーバー**

- SPARC M6-32 サーバー (*SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC M5-32 サーバー (*SPARC M5-32 サーバープロダクトノート*を参照)

■ **SPARC T5 サーバー**

- SPARC T5-1B サーバー (*SPARC T5-1B サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T5-2 サーバー (*SPARC T5-2 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T5-4 サーバー (*SPARC T5-4 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T5-8 サーバー (*SPARC T5-8 サーバープロダクトノート*を参照)

■ **SPARC T4 サーバー**

- SPARC T4-1 サーバー (*SPARC T4-1 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T4-2 サーバー (*SPARC T4-2 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T4-4 サーバー (*SPARC T4-4 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T4-1B サーバー (*SPARC T4-1B サーバープロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T4-1 サーバー (*Netra SPARC T4-1 サーバーのプロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T4-2 サーバー (*Netra SPARC T4-2 サーバーのプロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T4-1B サーバー (*Netra SPARC T4-1B サーバープロダクトノート*を参照)

■ **SPARC T3 サーバー**

- SPARC T3-1 サーバー (*SPARC T3-1 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T3-2 サーバー (*SPARC T3-2 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T3-4 サーバー (*SPARC T3-4 サーバープロダクトノート*を参照)
- SPARC T3-1B サーバー (*SPARC T3-1B サーバーモジュールプロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T3-1 サーバー (*Netra SPARC T3-1 サーバープロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T3-1B サーバー (*Netra SPARC T3-1B サーバープロダクトノート*を参照)
- Netra SPARC T3-1BA サーバー (*Netra SPARC T3-1BA サーバープロダクトノート*を参照)

- **UltraSPARC T2 Plus** サーバー
 - Oracle Sun SPARC Enterprise® T5140 および T5240 サーバー (*Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバー管理ガイド*を参照)
 - Oracle Sun SPARC Enterprise T5440 サーバー (*Sun SPARC Enterprise T5440 サーバー管理ガイド*を参照)
 - Oracle Sun Blade™ T6340 サーバーモジュール (*Sun Blade T6340 サーバーモジュールプロダクトノート*を参照)
 - Oracle Netra™ T5440 サーバー (*Sun Netra T5440 サーバープロダクトノート*を参照)
 - Oracle Sun Netra T6340 サーバーモジュール (*Sun Netra T6340 サーバーモジュールプロダクトノート*を参照)。
- **UltraSPARC T2** サーバー
 - Oracle Sun SPARC Enterprise T5120 および T5220 サーバー (*Sun SPARC Enterprise T5120/T5220 サーバー管理ガイド*を参照)
 - Oracle Sun Blade T6320 サーバーモジュール (*Sun Blade T6320 サーバーモジュールプロダクトノート*を参照)
 - Oracle Netra T5220 サーバー (*Sun Netra T5220 サーバープロダクトノート*を参照)
 - Oracle Netra CP3260 Blade (*Netra CP3260 Blade サーバープロダクトノート*を参照)

システムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョン

このセクションでは、最新の Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアで使用するシステムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョンについて説明します。

Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアは、少なくとも最小バージョンのシステムファームウェアおよび Oracle Solaris OS とともに実行できます。そのような構成では、最新の Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの一部の機能が使用できない可能性があります。本番環境で最良の結果が得られるように、[12 ページの「完全に認定されたシステムファームウェアバージョン」](#)に記載されている完全に認定されたシステムファームウェアバージョン、および [14 ページの「完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン」](#)に記載されている Oracle Solaris OS バージョンで実行してください。



注意 - 個々のシステムファームウェア、Oracle Solaris OS、またはソフトウェアコンポーネントの旧バージョンにダウングレードしないでください。このようなダウングレードは、予期しない動作や障害の原因となる可能性があります。

最小のシステムファームウェアバージョン

少なくとも次のバージョンのシステムファームウェアが実行されているシステムに最新の Oracle VM Server for SPARC パッケージを適用できます。これは、プラットフォームに固有で、マシン内の CPU の要件に依存します。

- Fujitsu M10 サーバー: XCP2210
- SPARC M6 サーバー: 9.1.0.g
- SPARC M5 サーバー: 9.0.1.f
- SPARC T5 サーバー: 9.1.0.b
- SPARC T4 サーバー: 8.4.0.a
- SPARC T3 サーバー: 8.3
- UltraSPARC T2 Plus サーバー: 7.4.5
- UltraSPARC T2 サーバー: 7.4.5

完全に認定されたシステムファームウェアバージョン

すべての Oracle VM Server for SPARC 3.2 機能を有効にするには、次のプラットフォームで完全に認定されたシステムファームウェアバージョンを実行している必要があります。

- Fujitsu M10 サーバー: XCP2240
- SPARC M6 サーバー: 9.4
- SPARC M5 サーバー: 9.4
- SPARC T5 サーバー: 9.4
- SPARC T4 サーバー: 8.7
- SPARC T3 サーバー: 8.3.10
- SPARC T2 Plus サーバー: 7.4.8.a
- SPARC T2 サーバー: 7.4.8.a

完全に認定されたシステムファームウェアパッチ

Oracle VM Server for SPARC 3.2 のすべての機能を活用するには、Oracle の SPARC T シリーズサーバーまたは M シリーズサーバーが、少なくとも、次の表に示されているシステムファームウェアパッチのリビジョンを実行していることを確認してください。

表 1-1 Oracle VM Server for SPARC 3.2: の完全に認定されたシステムファームウェアバージョン

プラットフォームタイプ	3.2 のシステムファームウェアパッチ
SPARC M6-32 サーバー	20214652
SPARC M5-32 サーバー	20214652
SPARC T5-1B サーバー	20214649
SPARC T5-2 サーバー	20214646
SPARC T5-4 サーバー	20214648
SPARC T5-8 サーバー	20214648
Netra SPARC T5-1B サーバー	20214650
SPARC T4-1 サーバー	151743-01
SPARC T4-2 サーバー	151744-01
SPARC T4-4 サーバー	151745-01
SPARC T4-1B サーバー	151746-01
Netra SPARC T4-1 サーバー	151747-01
Netra SPARC T4-2 サーバー	151748-01
Netra SPARC T4-1B サーバー	151749-01

最小の Oracle Solaris OS バージョン

特定の CPU タイプに対して最小要件となる Oracle Solaris OS のバージョンは、すべてのドメインタイプ (制御、サービス、I/O、およびゲスト) に適用されます。サポートされるサーバープラットフォームでの最小の Oracle Solaris OS バージョンについては、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/oracle-sparc-ent-servers-189996.html> で、使用しているサーバープラットフォームのデータシートを参照してください。

注記 - ゲストドメインでは、プラットフォームでサポートされているすべての OS バージョンを実行できます。

完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン

Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアのすべての機能を使用するには、少なくとも次のオペレーティングシステム (OS) をすべてのドメインにインストールするか、これらにアップグレードする必要があります。

- Oracle Solaris 10 1/13 OS および表1-2「古い Oracle Solaris OS バージョンとドメイン用の Oracle VM Server for SPARC 3.2: パッチ」に記載されているパッチ
- Oracle Solaris 11.2.8.0.0 (SRU 8) OS

次の表に、Oracle VM Server for SPARC 3.2 の機能を備えるために Oracle Solaris 10 1/13 OS に適用する必要があるパッチを示します。サポートされるサーバープラットフォームでの最小の Oracle Solaris OS バージョンについては、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/oracle-sparc-ent-servers-189996.html> で、使用しているサーバープラットフォームのデータシートを参照してください。

表 1-2 古い Oracle Solaris OS バージョンとドメイン用の Oracle VM Server for SPARC 3.2: パッチ

パッチ ID	制御ドメイン	サービスドメイン	I/O ドメイン	ゲストドメイン
125555-15 (Oracle Solaris 10 1/13)	X	X	X	
146582-05 (Oracle Solaris 10 1/13 fmd)	X	X	X	
148322-12 (Oracle Solaris 10 1/13 ixgbe)	X	X	X	
148322-12 (Oracle Solaris 10 1/13 ixgbevf)	X	X	X	
148888-05 (Oracle Solaris 10 1/13 カーネル更新)	X	X	X	
149173-04 (Oracle Solaris 10 1/13)	X	X	X	X
150031-09 (Oracle Solaris 10 1/13)	X	X	X	X
150107-03 (Oracle Solaris 10 1/13 ds)	X	X	X	X
150400-18 (Oracle Solaris 10 1/13 動的な I/O 仮想化のためのカーネル更新)	X	X	X	X
150435-03 (Oracle Solaris 10 1/13)	X	X	X	X
150840-04 (Oracle Solaris 10 1/13)	X	X	X	X

注記 - このパッチリストに示しているのは、最小のパッチリビジョンです。同じパッチの、これよりも新しいリビジョンをインストールしてもかまいません。

Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの場所

Oracle VM Server for SPARC 3.2 リリースでは、Oracle Solaris 10 OS および Oracle Solaris 11 OS の両方の最新パッケージを入手できます。Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアは、デフォルトでは Oracle Solaris 11.2.8.0.0 (SRU 8) OS 以上に同梱されています。

- **Oracle Solaris 11 OS。** `ldomsmanager` パッケージは、Oracle Solaris 11.2 Support Repository または My Oracle Support から入手します。[33 ページの「Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法 \(Oracle Solaris 11\)」](#)を参照してください。

[Support Repository Updates](http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html) を使用して Oracle Solaris 11 システムを更新する方法 (<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html>) および [Image Packaging System](#) を使用して Oracle Solaris 11.1 を更新する方法 (<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/howto-update-11dot1-ips-1866781.html>) の記事も参照してください。

- **Oracle Solaris 10 OS。** My Oracle Support から `OVM_Server_SPARC-3_2.zip` Oracle VM Server for SPARC パッケージをダウンロードします。[25 ページの「Logical Domains Manager ソフトウェアをダウンロードする方法 \(Oracle Solaris 10\)」](#)を参照してください。

Oracle Solaris 10 の場合、ダウンロードした `OVM_Server_SPARC-3_2.zip` ファイルには次が含まれています。

- Oracle VM Server for SPARC ソフトウェア (`SUNWldm.v`)
- `SUNWldm.v` パッケージ内の `ldm(1M)`、`ldmconfig(1M)`、および `ldmd(1M)` のマニュアルページ (このパッケージがインストールされるときにインストールされる)
- Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのインストールスクリプト (`install-ldm`)
- Oracle VM Server for SPARC 管理情報ベース (`SUNWldmib`)
- 物理から仮想への変換ツール (`SUNWldmp2v`)

使用しているプラットフォームのシステムファームウェアは、<http://www.oracle.com/technetwork/systems/patches/firmware/index.html> で入手できます。

Logical Domains Manager および Oracle Solaris OS のパッチは、<http://support.oracle.com> で入手できます。

zip ファイルのディレクトリ構造は次のようになります。

```
Install/  
  install-ldm  
Product/  
  Japanese/  
    README.txt  
    SUNWjldm.v  
    SUNWjldmp2v  
  SUNWldm.v  
  SUNWldm1b  
  SUNWldmp2v  
README.txt
```

ドキュメントの場所

この製品の最新情報や既知の問題は、ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-sparc-194287.html>) に含まれています。

Oracle Solaris 10 OS の場合は、Oracle VM Server for SPARC 3.2 のマニュアルページは、SUNWldm.v および SUNWldmp2v パッケージの一部としてシステムにインストールされます。マニュアルページの日本語翻訳は、SUNWjldm.v および SUNWjldmp2v パッケージとともに Oracle Solaris 10 システムにインストールできます。

Oracle Solaris 11 OS の場合、Oracle VM Server for SPARC 3.2 のマニュアルページおよび日本語翻訳は、ldomsmanager パッケージの一部としてシステムにインストールされます。

次の表に、Oracle VM Server for SPARC 3.2 リリースで利用できるドキュメントを示します。これらのドキュメントは、特に記載がないかぎり、HTML 形式と PDF 形式で利用できます。

表 1-3 関連ドキュメント

用途	タイトル
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア	『OracleVM Server for SPARC 3.2 管理ガイド』
	『Oracle VM Server for SPARC 3.2 Installation Guide』
	『OracleVM Server for SPARC 3.2 セキュリティーガイド』
	『Oracle VM Server for SPARC 3.2 リファレンスマニュアル』

用途	タイトル
	『Oracle VM Server for SPARC 3.2 リリースノート』
Oracle VM Server for SPARC 3.2 drd(1M) および vntsd(1M) マニュアルページ	Oracle Solaris OS リファレンスマニュアル: <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 ドキュメント (http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-10-192992.html) ■ Oracle Solaris 11.2 ドキュメント (http://docs.oracle.com/cd/E36784_01)
Oracle Solaris OS: インストールと構成	Oracle Solaris OS インストールおよび構成ガイド: <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 ドキュメント (http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-10-192992.html) ■ Oracle Solaris 11.2 ドキュメント (http://docs.oracle.com/cd/E36784_01)
Oracle VM Server for SPARC および Oracle Solaris OS のセキュリティー	Oracle VM Server for SPARC のホワイトペーパーおよび Oracle Solaris OS セキュリティーガイド: <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>Secure Deployment of Oracle VM Server for SPARC</i> (http://www.oracle.com/technetwork/articles/systems-hardware-architecture/secure-ovm-sparc-deployment-294062.pdf) ■ 『Oracle Solaris 10 Security Guidelines 』 ■ 『Oracle Solaris 11 Security Guidelines 』

使用しているサーバー、ソフトウェア、または Oracle Solaris OS に関連するドキュメントは、<http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html> で参照できます。必要なドキュメントや情報を検索するには、「Search」ボックスを使用します。

関連ソフトウェア

Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアとともに使用できるソフトウェア

このセクションでは、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアと互換性があり、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアとともに使用できるソフトウェアについて説明します。使用しているバージョンの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアおよびプラットフォームで使用可能なソフトウェアのバージョン番号を、そのソフトウェアのドキュメントまたは使用しているプラットフォームのドキュメントで必ず確認してください。

- **Oracle VM Manager** は、Oracle VM 環境を管理する際に使用可能な Web ベースのインタフェースです。Oracle VM Manager の詳細は、[Oracle VM のドキュメント](http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html) (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>)を参照してください。
- **SunVTS** 機能は、特定の Oracle VM Server for SPARC リリースおよび特定のプラットフォーム上の制御ドメインとゲストドメインで使用できます。SunVTS™ (Sun Validation Test Suite) は、Oracle Sun サーバー上のほとんどのハードウェアコントローラとデバイスの接続や適切な機能を確認することによって Oracle Sun ハードウェアをテストおよび検証する包括的な診断ツールを提供します。SunVTS の詳細については、[SunVTS 7.0 ソフトウェア](#)を参照してください。
- **Explorer Data Collector** は、制御ドメイン上で Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアが有効になっている場合に使用できます。Explorer は診断データ収集ツールです。このツールは、シェルスクリプトといくつかのバイナリ実行可能ファイルで構成されています。詳細については、『[Oracle Explorer ユーザーズガイド](#)』 (<http://docs.oracle.com/cd/E19957-01/819-6613/819-6613.pdf>)を参照してください。
- **Oracle Solaris** クラスタ ソフトウェアは、いくつかの制限付きでゲストドメインで使用できます。制限および Oracle Solaris クラスタ ソフトウェアの一般的な概要については、[Oracle Solaris クラスタ のドキュメント](#)を参照してください。
- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** を使用すると、物理および仮想システムリソースを管理できます。この解決策によって、リソースの検出とモニタリングが単純化され、オペレーティングシステムとファームウェアのプロビジョニングが可能になります。また、更新とパッチの包括的な管理が実行され、Oracle Solaris ゾーンや Oracle VM Server for SPARC などの仮想環境が管理されるとともに、電源投入から本稼働までのハードウェア管理がサポートされます。詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/index.html> を参照してください。

Oracle VM Server for SPARC と相互作用するシステムコントローラソフトウェア

次のシステムコントローラ (System Controller, SC) ソフトウェアは、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアと相互作用します。

- **Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0** は、SPARC T シリーズおよび M シリーズのシステムをモニター、管理、および構成するために使用できるシステム管理ファームウェアです。ILOM はこれらのプラットフォームにプリインストールされており、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアが利用可能な、サポートされているサーバーで使用で

きます。ILOM をサポートする Oracle Sun ラックマウント型サーバーやブレードサーバーに共通の機能およびタスクについては、『*Sun Integrated Lights Out Manager 3.0 ユーザーズガイド*』を参照してください。使用しているサーバープラットフォームに固有な ILOM の機能およびタスクについては、ほかのユーザードキュメントに記載されています。ILOM のプラットフォーム固有の情報は、システムに付属のドキュメントセットで確認できます。

- **Netra Data Plane Software Suite** は、完全なボード用ソフトウェアパッケージソリューションです。このソフトウェアは、Sun CMT プラットフォームのマルチスレッドパーティション分割ファームウェアの上部に、最適化された迅速な開発および実行環境を提供します。Logical Domains Manager には、このソフトウェアとともに使用するいくつかの `ldm` サブコマンド (`add-vdpcs`、`rm-vdpcs`、`add-vdpcc`、および `rm-vdpcc`) が含まれています。このソフトウェアの詳細については、<http://docs.oracle.com/cd/E19282-01/> にあるドキュメントを参照してください。
- **Fujitsu M10 サーバー eXtended System Control Facility (XSCF)** は、Fujitsu M10 サーバーをモニター、管理、および構成するために使用できるシステム管理ファームウェアです。XSCF はこれらのプラットフォームにプリインストールされており、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアを有効にして使用できます。このソフトウェアの詳細は、<http://www.fujitsu.com/global/services/computing/server/sparc/downloads/manual/> にある、使用しているモデルのプロダクトノートに記載された『*Fujitsu M10 サーバー/SPARC M10 システム運用・管理ガイド*』および『*Fujitsu M10 サーバー/SPARC M10 XSCF リファレンスマニュアル*』を参照してください。

◆◆◆ 第 2 章

ソフトウェアのインストールおよび有効化

この章では、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアを有効にするために必要なさまざまなソフトウェアコンポーネントをインストールまたはアップグレードする方法について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 21 ページの「Oracle VM Server for SPARC ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアコンポーネント」
- 22 ページの「新しいシステムへの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのインストール」
- 29 ページの「Oracle VM Server for SPARC をすでに使用しているシステムのアップグレード」
- 34 ページの「出荷時デフォルト構成とドメインの有効化」

Oracle VM Server for SPARC ハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェアコンポーネント

Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアを使用するには、次のコンポーネントが必要です。

- サポートされるプラットフォーム。サポートされているプラットフォームのリストについては、9 ページの「サポートされるプラットフォーム」を参照してください。システムファームウェアの最小バージョンおよび完全に認定されたバージョンについては、12 ページの「完全に認定されたシステムファームウェアバージョン」および23 ページの「システムファームウェアのアップグレード」を参照してください。
- 必要な Support Repository Update (SRU) が適用された Oracle Solaris 11 以上の OS と同等のオペレーティングシステムが動作している制御ドメイン、または11 ページの「システムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョ

ン]のすべてのパッチが適用された Oracle Solaris 10 1/13 OS が動作している制御ドメイン。29 ページの「Oracle Solaris OS のアップグレード」を参照してください。

サポートされるサーバープラットフォームでの最小の Oracle Solaris OS バージョンについては、<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/oracle-sparc-ent-servers-189996.html> で、使用しているサーバープラットフォームのデータシートを参照してください。

- 制御ドメインにインストールされて有効になっている Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア。25 ページの「Logical Domains Manager のインストール」を参照してください。
- (オプション) Oracle VM Server for SPARC 管理情報ベース (MIB) ソフトウェアパッケージ。Chapter 20, 「Using the Oracle VM Server for SPARC Management Information Base Software,」 in 『Oracle VM Server for SPARC 3.2 Administration Guide 』を参照してください。

システムがすでに Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアを使用している場合は、29 ページの「Oracle VM Server for SPARC をすでに使用しているシステムのアップグレード」を参照してください。そうでない場合は、22 ページの「新しいシステムへの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのインストール」を参照してください。

新しいシステムへの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのインストール

Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアをサポートする SPARC プラットフォームは、Oracle Solaris 10 OS または Oracle Solaris 11 OS がプリインストールされています。初期状態では、プラットフォームは 1 つのオペレーティングシステムのみをホストする単一のシステムとして示されます。Oracle Solaris OS、システムファームウェア、および Logical Domains Manager をインストールすると、Oracle Solaris OS の元のシステムおよびインスタンスが制御ドメインになります。プラットフォームのこの最初のドメインには、primary という名前が付けられます。この名前を変更したり、このドメインを削除したりすることはできません。このドメインから、Oracle Solaris OS のさまざまなインスタンスをホストする複数のドメインを持つようにプラットフォームを再構成できます。

注記 - ゲストドメインで動作するバージョンの Oracle Solaris OS ソフトウェアは、primary ドメインで動作する Oracle Solaris OS バージョンから独立していません。そのため、primary ドメインで Oracle Solaris 10 OS を実行している場合でも、ゲストドメインのいずれかで Oracle Solaris 11 OS を実行できます。同様に、primary ドメインで Oracle Solaris 11 OS を実行している場合でも、ゲストドメインのいずれかで Oracle Solaris 10 OS を実行できます。

primary ドメインでどの Oracle Solaris OS バージョンを実行するかは、要件と、Oracle Solaris 10 と Oracle Solaris 11 の間の潜在的な機能の違いに基づいて決定してください。『Oracle Solaris 11.2 Release Notes』および『Transitioning From Oracle Solaris 10 JumpStart to Oracle Solaris 11.2 Automated Installer』を参照してください。

Oracle Solaris OS の更新

新しいシステムで独自のインストール方針に準拠させるには、出荷時にインストールされた OS の再インストールが必要な場合があります。14 ページの「完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン」を参照してください。Oracle Solaris OS の包括的なインストール手順については、Oracle Solaris 10 8/11 Information Library (http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/) および Oracle Solaris 11.1 Information Library (http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/) を参照してください。インストール内容は、使用するシステムの要件に合わせて調整できます。

ご利用のシステムに Oracle Solaris OS がインストールされている場合は、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアに関連付けられた OS のバージョンにアップグレードする必要があります。11 ページの「システムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョン」を参照してください。Oracle Solaris OS の包括的なアップグレード手順については、Oracle Solaris 10 8/11 Information Library (http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/) および Oracle Solaris 11.1 Information Library (http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/) を参照してください。

システムファームウェアのアップグレード

SPARC T シリーズおよび SPARC M シリーズシステムのシステムファームウェアをアップグレードするときは、次のリソースを使用します。

- ILOM ソフトウェアを使用したシステムファームウェアのアップグレードについては、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』の「ファームウェアの更新」

および「ILOM ファームウェアの更新」を参照してください。ILOM ソフトウェアの使用法については、使用しているプラットフォーム固有のドキュメント (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-tseries-servers-252697.html>) を参照してください。

- 使用しているプラットフォームのシステムファームウェアは、<http://www.oracle.com/technetwork/systems/patches/firmware/index.html> から入手できます。
- サポートされるサーバーに必要なシステムファームウェアについては、13 ページの「完全に認定されたシステムファームウェアパッチ」を参照してください。
- 制御ドメインからシステムファームウェアをアップグレードする場合は、SPARC T-Series Servers Documentation (<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sparc-tseries-servers-252697.html>) で入手可能なシステムファームウェアのプロジェクトノートを参照してください。
- サポートされるサーバーのシステムファームウェアのインストールおよびアップグレードについては、そのサーバーの管理ガイドまたはプロジェクトノートを参照してください。
- ILOM Web インタフェースを使用してシステムファームウェアをアップグレードする方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」を参照してください。

eXtended System Control Facility (XSCF) を使用して、Fujitsu M10 サーバーファームウェアをアップグレードするには、次のリソースを参照してください。

- *Fujitsu M10 サーバー システム運用・管理ガイド*
- *Fujitsu M10 サーバー XSCF リファレンスマニュアル*

Logical Domains Manager のダウンロード

Oracle Solaris 10 OS および Oracle Solaris 11 OS の両方の最新パッケージを入手できます。Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアは、デフォルトでは Oracle Solaris 11 OS に同梱されていることに注意してください。

- **Oracle Solaris 10 OS.** My Oracle Support から `OVMServer_SPARC-3_2.zip` パッケージをダウンロードします。25 ページの「Logical Domains Manager ソフトウェアをダウンロードする方法 (Oracle Solaris 10)」を参照してください。
- **Oracle Solaris 11 OS.** Oracle Solaris 11 Support Repository から `ldomsmanager` パッケージを入手します。33 ページの「Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法 (Oracle Solaris 11)」を参照してください。

▼ Logical Domains Manager ソフトウェアをダウンロードする方法 (Oracle Solaris 10)

1. <http://www.oracle.com/us/technologies/virtualization/overview/index.html> から OVM_Server_SPARC-3_2.zip zip ファイルをダウンロードします。
2. 保存した zip ファイルを解凍します。

```
$ unzip OVM_Server_SPARC-3_2.zip
```

ファイルの構造と含まれている内容については、[15 ページの「Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの場所」](#)を参照してください。

Logical Domains Manager のインストール

Logical Domains Manager ソフトウェアのインストール方法は次のとおりです。

- **Oracle Solaris 10** のみ。インストールスクリプトを使用してパッケージおよびパッチをインストールします。この方法では Logical Domains Manager ソフトウェアが自動的にインストールされます。[26 ページの「Logical Domains Manager ソフトウェアの自動的なインストール \(Oracle Solaris 10\)」](#)を参照してください。
- **Oracle Solaris 10** のみ。Oracle Solaris JumpStart 機能を使用して、パッケージをネットワークインストールの一部としてインストールします。JumpStart サーバーの構成の詳細については、『[Oracle Solaris 10 8/11 Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations](#)』を参照してください。この機能の使用法の詳細については、『[JumpStart Technology: Effective Use in the Solaris Operating Environment](#)』も参照してください。
- **Oracle Solaris 11** のみ。Oracle Solaris 11 Automated Installer 機能を使用して、パッケージをネットワークインストールの一部としてインストールします。『[Installing Oracle Solaris 11.2 Systems](#)』のパート III「[Installing Using an Install Server](#)」および『[Transitioning From Oracle Solaris 10 JumpStart to Oracle Solaris 11.2 Automated Installer](#)』を参照してください。
- パッケージを手動でインストールします。[27 ページの「Logical Domains Manager ソフトウェアの手動によるインストール」](#)を参照してください。

注記 - Oracle VM Server for SPARC パッケージをインストールしたあとで、Oracle VM Server for SPARC MIB ソフトウェアパッケージを手動でインストールする必要があります。これは、ほかのパッケージとともに自動的にインストールされません。Oracle VM Server for SPARC MIB のインストールと使用の詳細は、『[Oracle VM Server for SPARC 3.2 管理ガイド](#)』の第 20 章「[Oracle VM Server for SPARC 管理情報ベース \(MIB\) ソフトウェアの使用](#)」を参照してください。

Logical Domains Manager ソフトウェアの自動的なインストール (Oracle Solaris 10)

`install-ldm` インストールスクリプトには、スクリプトの実行方法を指定するオプションがいくつかあります。それぞれの選択肢について、次の手順で説明します。

オプションを指定しない場合、このスクリプトは、次の処理を自動的に実行します。

- Oracle Solaris OS リリースが Oracle Solaris 10 OS であることを確認します
- パッケージのサブディレクトリである `SUNWldm/` と `SUNWldmp2v/`、および前提条件となる Oracle VM Server for SPARC ドライバパッケージである `SUNWldomr` と `SUNWldomu` が存在することを確認します
- `SUNWldm` および `SUNWldmp2v` パッケージがインストールされていないことを確認します。
- Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアをインストールします。
- すべてのパッケージがインストールされていることを確認します。
- Solaris Security Toolkit (SST) パッケージ (`SUNWjass`) がすでにインストールされている場合は、制御ドメインの Oracle Solaris OS の強化を求めるプロンプトが表示されます。
- Oracle VM Server for SPARC Configuration Assistant (`ldmconfig`) を使用してインストールを実行するかどうかを判断します。

ソフトウェアをインストールしたあとで Oracle VM Server for SPARC Configuration Assistant を自動的に実行するには、`-c` オプションを指定します。このユーティリティーの実行をスキップするには、`-s` を指定します。

SST パッケージがインストールされている場合は、`install-ldm` スクリプトで次のオプションを発行できます。

`-d` `-secure.driver` で終わるドライバ以外の SST ドライバを指定します。このオプションは、指定した SST のカスタマイズドライバ (たとえば `server-secure-myname.driver`) で制御ドメインの Oracle Solaris OS を強化します。

- d none SST を使用して制御ドメインで実行している Oracle Solaris OS を強化しないことを指定します。SST の使用を省略することはお勧めしません。別の処理を使用して制御ドメインを強化する場合にかぎり、この使用を省略するようにしてください。
- p インストール後の処理 (Logical Domains Manager デーモン (ldmd) の有効化および SST の実行) のみを実行することを指定します。たとえば、SUNWldm および SUNWjass パッケージがサーバーにプリインストールされている場合に、このオプションを使用します。

Logical Domains Manager ソフトウェアの手動によるインストール

次に、Oracle Solaris 10 OS 上に Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアを手動でインストールする手順を説明します。

Oracle Solaris 11.2 OS をインストールすると、デフォルトで Oracle VM Server for SPARC 3.1.1.0 ソフトウェアがインストールされます。Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアをインストールする場合は、[33 ページの「Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法 \(Oracle Solaris 11\)」](#)を参照してください。

▼ Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアを手動でインストールする方法 (Oracle Solaris 10)

1. <http://www.oracle.com/us/technologies/virtualization/overview/index.html> から OVM_Server_SPARC-3_2.zip zip ファイルをダウンロードします。

2. 保存した zip ファイルを解凍します。

```
$ unzip OVM_Server_SPARC-3_2.zip
```

ファイルの構造と含まれている内容については、[15 ページの「Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアの場所」](#)を参照してください。

3. 以前のバージョンの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアをすでに実行している場合は、サービスプロセッサ (SP) に構成を保存します。

```
primary# ldm add-config config-name
```

4. SUNWldm.v および SUNWldmp2v パッケージをインストールします。

```
# pkgadd -Gd . SUNWldm.v SUNWldmp2v
```

対話型プロンプトのすべての質問に対して、y (はい) と答えます。

-G オプションはパッケージを大域ゾーンのみにインストールします。-d オプションは、SUNWldm.v および SUNWldmp2v パッケージが含まれるディレクトリのパスを指定します。

詳細については、pkgadd(1M) のマニュアルページを参照してください。

5. **SUNWldm および SUNWldmp2v パッケージがインストールされていることを確認します。**

```
# pkginfo -l SUNWldm
# pkginfo -l SUNWldmp2v
```

詳細については、pkginfo(1) のマニュアルページを参照してください。

Logical Domains Manager デーモンの有効化

install-ldm インストールスクリプトを使用すると、Logical Domains Manager デーモン (ldmd) が自動的に有効になります。Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアパッケージをインストールした場合も、ldmd デーモンは自動的に有効になります。このデーモンが有効になると、論理ドメインを作成、変更、および制御できます。



注意 - ILOM 相互接続をほかのシステムで無効にしないでください。ただし、そうした場合でも ldmd デーモンは SP と通信できます。

▼ Logical Domains Manager デーモンを有効にする方法

ldmd デーモンが無効になっている場合、次の手順に従ってこのデーモンを有効にします。

1. **svcadm コマンドを使用して、Logical Domains Manager デーモンの ldmd を有効にします。**

```
# svcadm enable ldmd
```

svcadm コマンドの詳細は、svcadm(1M) マニュアルページを参照してください。

2. **Logical Domains Manager が実行中であることを確認します。**

ldm list コマンドを実行すると、システム上で現在定義されているすべてのドメインが一覧表示されます。特に、primary ドメインが表示され、状態が active になっているはずです。次のサンプル出力は、システム上に primary ドメインのみが定義されていることを示します。

```
# ldm list
NAME          STATE  FLAGS  CONS  VCPU  MEMORY  UTIL  UPTIME
primary       active ---c-  SP    64    3264M  0.3%  19d 9m
```

Oracle VM Server for SPARC をすでに使用しているシステムのアップグレード

このセクションでは、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアをすでに使用しているシステムで Oracle Solaris OS、ファームウェア、および Logical Domains Manager コンポーネントをアップグレードするプロセスについて説明します。制御ドメインと既存のドメインをアップグレードすると、それらのドメインですべての Oracle VM Server for SPARC 3.2 機能の使用が可能になります。

注記 - Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアをアップグレードする場合は、最初に次の手順を実行します。

- システムファームウェアをアップグレードします。
[12 ページの「完全に認定されたシステムファームウェアバージョン」](#)を参照してください。
 - Oracle Solaris 11 OS SRU または Oracle Solaris 10 OS および適切なパッチをインストールします。
[14 ページの「完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン」](#)を参照してください。
 - 構成を SP に保存します。
-

Oracle Solaris OS のアップグレード

このバージョンの Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアで使用するべき Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 OS、および各種ドメインの必須パッチと推奨されるパッチについては、[11 ページの「システムファームウェアバージョンおよび Oracle Solaris OS バージョン」](#)を参照してください。Oracle Solaris OS のアップグレードの詳細な手順については、Oracle Solaris 10 および Oracle Solaris 11 のインストールガイドを参照してください。

制御ドメインで Oracle Solaris OS を再インストールする場合は、このセクションに示す通り、ドメインの自動保存構成データおよび制約データベースファイルを保存し復元する必要があります。

自動保存構成ディレクトリの保存および復元

制御ドメインでオペレーティングシステムを再インストールする前に、自動保存構成ディレクトリを保存し復元することができます。制御ドメインでオペレーティングシステムを再インストールするたびに、ドメインの自動保存構成データを保存し復元する必要があります。このデータは、`/var/opt/SUNWldm/autosave-autosave-name` ディレクトリに格納されています。

`tar` または `cpio` コマンドを使用して、ディレクトリのすべての内容を保存および復元できます。

注記 - 各自動保存ディレクトリには、関連する構成の前の SP 構成更新のタイムスタンプが含まれています。自動保存ファイルを復元すると、タイムスタンプが同期しなくなることがあります。この場合、復元された自動保存構成は、以前の状態 ([`newer`] または最新) で表示されません。

自動保存構成の詳細は、『[Oracle VM Server for SPARC 3.2 管理ガイド](#)』の「[ドメイン構成の管理](#)」を参照してください。

▼ 自動保存ディレクトリの保存および復元方法

1. 自動保存ディレクトリを保存します。

```
# cd /
# tar -cvpf autosave.tar var/opt/SUNWldm/autosave-*
```

2. (オプション) クリーンな復元操作を行えるように、既存の自動保存ディレクトリを削除します。

自動保存ディレクトリには、以前の構成によって残されたファイルなどの不要なファイルが含まれていることがあります。このようなファイルは、SP にダウンロードされた構成を破壊することがあります。このような場合、この例に示すとおり、復元操作の前に自動保存ディレクトリを削除します。

```
# cd /
# rm -rf var/opt/SUNWldm/autosave-*
```

3. 自動保存ディレクトリを復元します。

これらのコマンドは、`/var/opt/SUNWldm` ディレクトリ内のファイルおよびディレクトリを復元します。

```
# cd /
# tar -xvpf autosave.tar
```

Logical Domains の制約データベースファイルの保存および復元

制御ドメインでオペレーティングシステムをアップグレードするたびに、Logical Domains の制約データベースファイル `/var/opt/SUNWldm/ldom-db.xml` を保存し復元する必要があります。

注記 - また、ディスクスワップなど、制御ドメインのファイルデータを破損するその他の操作を行うときは、`/var/opt/SUNWldm/ldom-db.xml` ファイルも保存および復元します。

Oracle Solaris 10 Live Upgrade 機能を使用する場合の Logical Domains の制約データベースファイルの保持

制御ドメインで Oracle Solaris 10 Live Upgrade 機能を使用する場合は、`/etc/lu/synclist` ファイルに次の行を追加することを検討してください。この行によって、ブート環境を切り替えたときに、データベースがアクティブなブート環境から新しいブート環境に自動的にコピーされます。

```
/var/opt/SUNWldm/ldom-db.xml    OVERWRITE
```

`/etc/lu/synclist`と、ブート環境間でのファイルの同期の詳細は、『[Oracle Solaris 10 8/11 Installation Guide: Live Upgrade and Upgrade Planning](#)』の「[Synchronizing Files Between Boot Environments](#)」を参照してください。

Logical Domains Manager およびシステムファームウェアのアップグレード

このセクションでは、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法について説明します。

最初に Logical Domains Manager を制御ドメインにダウンロードします。[24 ページ](#)の「[Logical Domains Manager のダウンロード](#)」を参照してください。

次に、プラットフォーム上で動作している制御ドメイン以外のすべてのドメインを停止します。

▼ プラットフォーム上で動作している制御ドメイン以外のすべてのドメインを停止する方法

このタスクは、システムの電源の再投入またはファームウェアのアップデートを行う予定がある場合にのみ実行してください。Logical Domains Manager ソフトウェアのアップデートのみを行う場合、このタスクを実行する必要はありません。

1. すべてのドメインを停止します。

```
primary# ldm stop-domain -a
```

2. 制御ドメインから各ドメインに対して `unbind-domain` サブコマンドを実行します。

```
primary# ldm unbind-domain ldom
```

Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアへのアップグレード

このセクションでは、Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法について説明します。

▼ Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法 (Oracle Solaris 10)

1. 構成を SP に保存します。

```
# ldm add-config config-name
```

次の例では、`ldoms-prev-config` という構成を保存します。

```
# ldm add-config ldoms-prev-config
```

2. 必要な場合は、システムファームウェアをフラッシュアップグレードします。
3. Logical Domains Manager デーモン (`ldmd`) を無効にします。

```
# svcadm disable ldmd
```

4. 古い `SUNWldm` パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWldm
```

5. 新しい SUNWldm パッケージを追加します。

```
# pkgadd -Gd . SUNWldm.v
```

-d オプションの指定は、パッケージが現在のディレクトリに存在することを示します。

注記 - この Oracle VM Server for SPARC リリースの最新の機能を手に入れるには、1 つ以上のパッチを適用する必要があります。詳細は、14 ページの「完全に認定された Oracle Solaris OS バージョン」を参照してください。

6. `ldm list` コマンドを使用して、Logical Domains Manager デーモンが実行中であることを確認します。

`ldm list` コマンドを実行すると、システム上で現在定義されているすべてのドメインが一覧表示されます。特に、primary ドメインが表示され、状態が active になっているはずで、次のサンプル出力は、システム上に primary ドメインのみが定義されていることを示します。

```
# ldm list
NAME          STATE  FLAGS  CONS  VCPU  MEMORY  UTIL  UPTIME
primary      active ---c-  SP    32    3264M  0.3%  19d 9m
```

▼ Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアにアップグレードする方法 (Oracle Solaris 11)

1. 構成を SP に保存します。

```
# ldm add-config config-name
```

次の例では、ldoms-prev-config という構成を保存します。

```
# ldm add-config ldoms-prev-config
```

2. オンラインソフトウェアリポジトリを使用するために登録します。

Certificate Generator Online Help (<https://pkg-register.oracle.com/help/#support>)を参照してください。

3. 必要な Oracle Solaris 11 SRU をインストールします。

```
# pkg update
```

新しい SRU への更新の詳細は、『Oracle サポートリポジトリからの Oracle Solaris 11 システムのアップデート方法 (<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html>)』を参照してください。

4. 必要に応じてシステムファームウェアをアップグレードまたは `pkg update` コマンドによって作成される新しい BE にリブートします。
5. 正しい `ldm` バージョンが実行されていることを確認します。

```
# ldm -V
```

出荷時デフォルト構成とドメインの無効化

初期構成では、プラットフォームが 1 つのオペレーティングシステムのみをホストする単一のシステムとして表示されますが、この構成は出荷時デフォルト構成と呼ばれます。論理ドメインを無効にする場合には、ほかのドメインに割り当てられている可能性のあるすべてのリソース (CPU、メモリー、I/O) にシステムがふたたびアクセスできるように、この構成の復元も必要になる場合があります。

このセクションでは、すべてのゲストドメインを削除し、ドメインのすべての構成を削除し、構成を出荷時のデフォルトに戻す方法について説明します。

▼ すべてのゲストドメインを削除する方法

1. すべてのドメインを停止します。

```
primary# ldm stop-domain -a
```

2. **primary** ドメインを除き、すべてのドメインのバインドを解除します。

```
primary# ldm unbind-domain ldom
```

注記 - 制御ドメインが必要とするサービスを I/O ドメインが提供している場合、その I/O ドメインのバインドを解除できないことがあります。この場合は、この手順をスキップします。

3. **primary** ドメインを除き、すべてのドメインを削除します。

```
primary# ldm remove-domain -a
```

▼ すべてのドメイン構成を削除する方法

1. サービスプロセッサ (SP) 上に格納されているすべてのドメインの構成を一覧表示します。

```
primary# ldm list-config
```

2. **factory-default** 構成を除き、SP に保存されたすべての構成(*config-name*) を削除します。各構成に対して次のコマンドを使用します。

```
primary# ldm rm-config config-name
```

以前 SP に保存した構成がすべて削除されると、制御ドメイン (primary) のリポート時に次に使用されるドメインが **factory-default** になります。

▼ 出荷時デフォルト構成を復元する方法

1. 出荷時デフォルト構成を選択します。

```
primary# ldm set-config factory-default
```

2. 制御ドメインを停止します。

```
primary# shutdown -i5 -g0 -y
```

3. システムの電源再投入を実行して、出荷時デフォルト構成をロードします。

```
-> stop /SYS  
-> start /SYS
```

▼ Logical Domains Manager を無効にする方法

Logical Domains Manager を無効にしても動作中のドメインは停止しませんが、新しいドメインの作成、既存のドメインの構成の変更、またはドメインの状態のモニターを行う機能は無効になります。



注意 - Logical Domains Manager を無効にすると、エラー報告や電源管理などの一部のサービスが無効になります。エラー報告については、**factory-default** 構成の場合は、制御ドメインをリポートしてエラーの報告を復元することはできます。ただし、電源管理を再度有効にすることはできません。また、一部のシステム管理またはモニタリングツールは Logical Domains Manager に依存しています。

- 制御ドメインから Logical Domains Manager を無効にします。

```
primary# svcadm disable ldmd
```

▼ サービスプロセッサから出荷時デフォルト構成を復元する方法

サービスプロセッサから出荷時デフォルト構成を復元できます。

1. サービスプロセッサから出荷時デフォルト構成を復元します。
-> `set /HOST/bootmode config=factory-default`
2. システムの電源再投入を実行して、出荷時デフォルト構成をロードします。
-> `reset /SYS`

索引

数字・記号

Oracle Solaris クラスタ, 18
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア
 Oracle Solaris 10 へのアップグレード, 32
 Oracle Solaris 11 へのアップグレード, 33
 へのアップグレード, 32
Logical Domains 制約データベース
 Oracle Solaris 10 Live Upgrade 機能用の保存, 31
 復元, 31
 保存, 31
Fujitsu M10 サーバー eXtended System Control Facility (XSCF), 19
Logical Domains Manager (Oracle Solaris 10)
 自動インストール, 26
 手動インストール, 27, 27
 ダウンロード, 25
Logical Domains Manager
 アップグレード, 29
 インストール, 25
 ダウンロード, 24
 無効化, 35
Logical Domains Manager デモン
 有効化, 28
Oracle VM Manager, 18
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア
 インストール, 22
 コンポーネント, 21
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ハードウェア
 コンポーネント, 21
Oracle VM Server for SPARC 3.2 ファームウェア
 コンポーネント, 21
Oracle Solaris 10 Live Upgrade 機能
 Logical Domains 制約データベースの保存, 31
Oracle Solaris OS
 アップグレード, 29

完全に認定されたバージョン, 14
更新, 23
Oracle Solaris OS バージョン
 最小, 13

あ

アップグレード
 Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア (Oracle Solaris 10) への, 32
 Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェア (Oracle Solaris 11) への, 33
 Oracle VM Server for SPARC 3.2 ソフトウェアへの, 32
 Logical Domains Manager, 29, 31
 Oracle Solaris OS, 29
 システムファームウェア, 23, 31
インストール
 Logical Domains Manager (Oracle Solaris 10) の自動, 26
 Logical Domains Manager (Oracle Solaris 10) の手動, 27, 27
 Logical Domains Manager, 25
 Oracle VM Server for SPARC ソフトウェア, 22

か

完全に認定されたシステムファームウェア, 12
 パッチ, 13
ゲストドメイン
 すべて削除, 34
更新
 Oracle Solaris OS, 23

さ

- サービスプロセッサ (SP)
 - 出荷時デフォルト構成の復元, 36
- 最小の Oracle Solaris OS バージョン, 13
- 最小のシステムファームウェアバージョン, 12
- 削除
 - すべてのゲストドメイン, 34
 - すべてのドメイン構成, 35
- サポートされるプラットフォーム, 9
- システムファームウェア, 11
 - アップグレード, 23
 - 完全に認定された, 12
 - 完全に認定されたパッチ, 13
 - パッチ, 11
- システムファームウェアバージョン
 - 最小, 12
- 自動保存構成ディレクトリ
 - 復元, 30
 - 保存, 30
- 出荷時デフォルト構成
 - サービスプロセッサからの復元, 36
 - 復元, 35
- ソフトウェア
 - Oracle VM Server for SPARC の場所, 15
 - 関連, 17

た

- ダウンロード
 - Logical Domains Manager (Oracle Solaris 10), 25
 - Logical Domains Manager, 24
- 停止
 - ドメイン, 32
- ドキュメント
 - Oracle VM Server for SPARC の場所, 16
- ドメイン
 - 停止, 32
 - 無効化, 34
- ドメイン構成
 - すべて削除, 35

は

- パッチ

- システムファームウェア, 11
- ファームウェア 参照 システムファームウェア
- 復元
 - Logical Domains 制約データベース, 31
 - サービスプロセッサからの出荷時デフォルト構成, 36
 - 自動保存構成ディレクトリ, 30
 - 出荷時デフォルト構成, 35
- 保存
 - Logical Domains 制約データベース, 31
 - Oracle Solaris 10 Live Upgrade 機能用の Logical Domains 制約データベース, 31
 - 自動保存構成ディレクトリ, 30

ま

- 無効化
 - Logical Domains Manager, 35
 - ドメイン, 34

や

- 有効化
 - Logical Domains Manager デーモン, 28

E

- Explorer Data Collector, 18

N

- Netra Data Plane Software Suite, 19

O

- Oracle Enterprise Manager Ops Center, 18

S

- Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0, 18
- SunVTS, 18